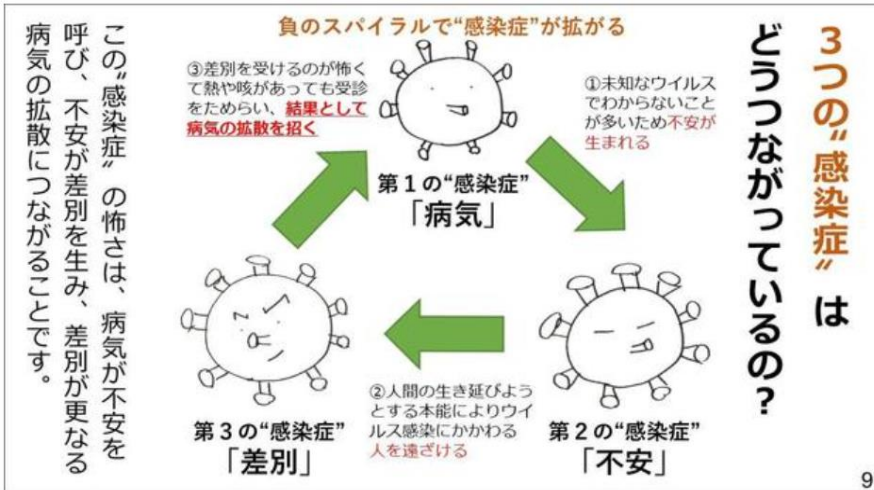


新型コロナウイルスと人権



3つの”感染症”のつながりとは？



※日本赤十字社では、『病気』『不安』『差別』の3つの”感染症”がつながり、負のスパイラルを生み出してしまっていることで、さらに感染の拡散につながっていると説明しています。

**第3の”感染症”を
ふせぐために**

みなさんそれぞれの場所で感染を拡大しないように頑張っています。

- ・小さな子どもがいる家庭
- ・高齢者
- ・治療を受けている人とその家族
- ・自宅待機している人
- ・医療従事者
- ・日常生活を送って社会を支えている人

この事態に対応しているすべての方々に
ねぎらい、敬意を払いましょう。

第3の”感染症”を
ふせぐために

不安を煽ることは病気に対する偏見や差別を強めます。

- ・「確かな情報」を拡げましょう。
- ・差別的な言動に同調しないようにしましょう。

**第3の”感染症”を
ふせぐために**

不安を煽ることは病気に対する偏見や差別を強めます。

- ・「確かな情報」を拡げましょう。
- ・差別的な言動に同調しないようにしましょう。

※日本赤十字社「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～」より一部抜粋して掲載しています。

法務省の人権擁護機関では、新型コロナウイルス感染症に関連する不当な差別、偏見、いじめ等の被害に遭った方からの人権相談を受け付けています。

困った時は、ひとりで悩まず、相談して下さい。

(※法務省 HP より抜粋)

様々な人権問題に関するインターネット相談はこちら

インターネット人権相談
Counseling on the Internet

様々な人権問題に関する相談はこちら

みんなの人権110番
0570-003-110

いじめ・虐待など子どもの人権の相談はこちら

子どもの人権110番
0120-007-110

セクハラ・家庭内暴力など女性の人権の相談はこちら

女性の人権ホットライン
0570-070-810

外国語での人権の相談はこちら(10言語対応)

外国語人権相談ダイヤル
0570-090-911

新型コロナウイルス発生に端を発した世界規模の混乱の中、新型コロナウイルスに關する人権問題が昨今特に目立っています。毎日、感染者の新たな報告が続いており、感染者やその家族、医療従事者などが差別や誹謗中傷されるケースなど、人権問題の増加が懸念されています。

国内外の感染状況を見据えると、新型コロナウイルス感染症については長期的な対応が見込まれる状況です。誰もが新型コロナウイルスに感染する可能性があります。感染防止対策に取り組むことはもちろんですが、感染された方やその関係者への偏見や差別、誹謗中傷をしない、プライバシーを守るなどの人権に配慮した言動を心がけましょう。



考えよう 様々な人権問題

私たちが、生きる現代社会には、様々な人権問題が存在しています。これらの問題を解決し、すべての人の人権が尊重された社会を実現するための第一歩は、私たち一人一人が正しく理解することです。

同和問題	子ども	高齢者	障害者
日本社会の歴史の過程で形づくられた身分差別により、同和地区と呼ばれる特定の地域出身であることやそこに住んでいることを理由に、長年にわたり差別を受けてきた人々が、今も結婚や就職の際に差別を受ける問題などがあります。	学校では、いじめや暴力、不登校、教師による体罰などの問題があり、家庭では、親から虐待を受けるなどの問題があります。日本は1994年に「児童の権利に関する条約（子どもの権利条約）」を批准し、子どもの生命と人権を守ることに取り組んでいます。	身体や精神面のおとろえを理由に、高齢者をのけ者にしたたり、邪魔者扱いしたりするなどの問題があります。また、就職に際して差別されたり、介護の際に身体的・心理的虐待が行われたりする問題などもあります。	障害があることを理由に、就職に際して差別される問題やアパート・マンションなどへの入居を拒否される問題、施設における虐待などの問題があります。
女性	外国人	HIV感染者・ハチン病患者及び元患者	犯罪被害者とその家族
「男は仕事、女は家庭」といった男女の役割を決めつける考え方が今も根強くあり、社会生活の様々な場面で、女性が不利益を受けるなどの問題があります。また、セクシャル・ハラスメント（性的嫌がらせ）や夫・交際相手などから暴力（※DV、デートDV）を受けるなどの問題もあります。	言葉や生活習慣等の違いから、入居や入店を拒否されたり、就職に際して差別されたりするなどの問題があります。また、一部の国や民族あるいは特定の国籍の外国人に向けて憎しみをあおるような差別的言動（ヘイトスピーチ）が行われるなどの問題があります。	不正確な知識や思いこみによってHIV感染者やハチン病患者等への偏見や差別意識が生まれ、患者・元患者やその家族が日常生活や職場などで差別を受けるなどの問題があります。 <u>現在、新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大する中、感染者やその家族、医療従事者などが差別されるケースも発生しています。</u>	犯罪被害者やその家族は、事件によって命を奪われるなどの直接的な被害のほかに、興味本位のうわさなどで傷つけられたり、行き過ぎた報道でプライバシーが侵害されたりするなど、二次的な被害を受けることがあります。
インターネットによる人権侵害	災害に伴う人権問題	アイヌの人々	刑を終えて出所した人
自分の名前を明らかにせず、不特定多数の人に自由に情報を公開できる特性が悪用され、悪口が書き込まれたり、プライバシーが侵害されたりするなどの問題があります。	福島第一原子力発電所の事故では、被災者に対する偏見や差別、避難した子どもたちへのいじめなどの問題が発生しました。また、災害発生時の避難所では、プライバシーの確保の問題や高齢者や障害者などがより一層厳しい状況に置かれるという問題があります。	北海道を中心に、昔から日本に住んでいたアイヌの人々は、独自の文化や伝統を築き上げてきました。しかし、これらに対する理解不足から、今なお結婚や就職に際して差別が残るなどの問題があります。	刑を終えて出所した人には本人に更生の意欲があっても、周囲の偏見や差別意識によって就職を断られたり、アパート、マンションなどへの入居を拒否されたりするなど、社会への復帰が困難となる場合があります。
性的指向・性同一性障害者（LGBT）にかかわる人権問題	ホームレス等生活困窮者にかかわる人権問題	北朝鮮当局による拉致問題等	【参考】
性的指向とは、恋愛の対象がどこに向かうかをいい、異性以外にも同性や両性に向かうなど人によって様々です。また、「体の性」と「心の性」が一致しない性同一性障害のある人もいます。こうしたことへの理解の不足から偏見の目で見られたり、差別を受けたりするなどの問題があります。	経済的事情等様々な理由から、公園や道路などでの生活が余儀なくされている人々がおり、こうした人々が嫌がらせや暴行を受ける問題があります。また、生活の困窮のために社会とのつながりが薄れ、自ら助けを求めることができないなどの問題があります。	1970年代～80年代にかけて、北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）当局によって日本人が拉致された問題です。日本政府は、これまでに17名（2002年に帰国した5名を含む）を拉致被害者として認定しています。	「栃木県人権施策推進基本計画（2016～2025）」栃木県平成28年3月「人権について考える～人権って何だろう？～」栃木県平成30年10月 ※DV（Domestic Violence）（ドメスティック・バイオレンス）の略で、配偶者からの暴力のことです。また、デートDVとは交際相手など親密な関係にある人（配偶者を除く）からの暴力のことです。

